



事例24

中京中学校の実践例から……

全国調査の分析を生かした授業改善・充実へ

中京中学校では、全国学力・学習状況調査の結果分析から読み取れる課題に基づき、教員の「授業改善自己評価シート」や生徒の「振り返りシート」などを活用し、授業改善のためのPDCAサイクルを強化する取組を始めました。

全国学力・学習状況調査結果の分析による課題把握

生徒質問紙の「最後の学習内容の振り返り」「めあてとまとめをノートに書く」項目が全国、全市平均より落ち込んでいる点に着目し、「めあて」と「振り返り」の徹底を軸とした授業改善に取り組んでいます。

具体的な授業改善に向けたPDCAの取組強化

●生徒が主体的に課題解決に当たるための「目標(めあて)」「振り返り」の意義の共有と徹底した実施

主体的・対話的で深い学びをもたらす授業づくりのために、「目標(めあて)」(授業導入時)と「振り返り」(授業終末)の明示を行う目的を全教員で共通理解し、その徹底した実施を図る。

① 授業の「目標(めあて)」を明示することで、生徒の「主体的な学び」へ

授業の目標(めあて)を示すことで、生徒に、何を学ぶのか、どのように学ぶのかの見通しを持たせ、学習への参加意欲を高めさせる。

⇒ 生徒の「主体的な学び」へつなげる。

【目標(めあて)の設定に当たっては…】

- ・身に付けさせたい力を具体的にイメージし、「活動のゴールの姿」などが見えるように！
- ・学習の見通しをもたせ、意欲を高めるものになるように！

② 生徒に「振り返り」を行わせることで、自分の学びを捉えなおす(省りみる)機会を

生徒自身に、授業1時間分の学びの「自分にとっての成果や意味」を自覚させる。

⇒ 今後の学習への意識づけにつなげる。

●取組徹底のための振り返り・評価シート

生徒の振り返り

① 毎時間、自己評価や理解の程度などを記入する「振り返りシート」で、自分の学びを捉えなおす。

(教科担任が単元毎に点検し、個人の学習状況を把握)

② 先生からのコメントも参考にしながら、今後の見通しを立てる。

⇒ 単元全体を見通す中で、自分なりの目標をもって学習に向かう姿勢が、徐々に見られるように

教員の振り返り

- ①「授業改善自己評価シート」をもとに授業を行う。
- ②単元・期間ごとに取組内容の評価・確認を行う。
- ③教務主任・研究主任を中心とした学力向上委員会で、各自の自己評価内容や課題等をまとめ、分析し、教員間で共有。
- ④教科会等で自己評価シート等をもとに研修し、自己の授業改善に生かす。

⇒ 自己評価をデータとして「見える化」し、教員間で共有することで、教員全体が高め合う姿勢へ

【生徒の振り返りシート】

項目…学習日、本時の目標、自己評価、わかったこと・わからなかったこと、もっと知りたいこと、問題集ページ、先生お

| 日 | 本時の目標 | 自己評価 | わかったこと わからなかったこと | もっと知りたい事 | 問題集 | 先生お |
|---|-------|-------|---------------------|----------|---------|-----|
| 1 | … | A B C | … | … | 778 | … |
| 2 | … | A B C | … | … | 779 | … |
| 3 | … | A B C | … | … | 780 | … |
| 4 | … | A B C | … | … | 781 | … |
| 5 | … | A B C | … | … | 782-783 | … |
| 6 | … | A B C | … | … | 784 | … |
| 7 | … | A B C | … | … | 785 | … |

【教員の自己評価シート】⇒教員間で共有

導入、展開、まとめ、その他の評価項目を5段階評価。

| 教科 名前 | 国語 | 国語 | 社会 |
|---|----------|----|----|
| | (各教員の氏名) | | |
| ①「ねらい・めあて」を明確に示し、学習の見通しを持たせている。 (～することができる。できるようになる。) | 2 | 3 | 4 |
| ②考えを整理する場面を設けている。(一人で考える場面) (記録、要約、論述などの言語活動を取り入れている。) | 2 | 3 | 3 |

事例25

大將軍小学校の実践例から……

プログラミング教育を生かした授業改善・充実へ

情報の理解・活用に関する学習は特別なものではなく、子どもたちが将来どのような進路を選択しても必要となるものです。大將軍小学校では、プログラミングを体験する学習に留まるのではなく、プログラミング的思考につながる論理的思考力を育てる学習となるよう、授業改善に取り組んでいます。

プログラミング教育とは？

つけない力

コンピュータに意図した処理を行うよう指示することができるという
プログラミング体験

↑ 日常の各教科や領域の学習場面における、**論理的思考力**を育てる活動

- 各教科や領域の学習内容との連携
- 子どもたちの生活の文脈に沿った題材を選択する工夫

プログラミング的思考

自分が意図する一連の活動を実現するため、

- ・どんな動きの組み合わせが必要か、
 - ・一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせればよいか、
 - ・その組み合わせをどう改善すればより意図した活動に近づくのか、
- といったことを論理的に考える力

↓ 将来どのような職業に就くとしても、**共通して求められる力**

「主体的・対話的で深い学び」を
めざす授業改善

6年生の授業では…

- 総合的な学習の時間（情報教育・キャリア教育の中に「プログラミング教育」を位置付けた単元構想）
「プログラミングソフト【scratch】の体験を通じた**プログラミング教育**」（4時間）

- 理科「電気とその利用」（全8時間）

- 展開第一次 つくる電気・ためる電気（3時間） 第二次 電気の有効利用とプログラミング（2時間）
- 第三次 電気と熱（3時間）

本時 第二次の1時間目：電気の有効活用の方法を考え、実際の生活場面での有効活用例を知る。

本時の中心発問

暗い場所に明かりを点す時に、どのようにすれば電気を有効に利用することができるだろうか

学習活動と児童の反応の想定

子どもの主体性を喚起する問いの例

先生「電気を有効に利用している電灯の工夫には、どんなものがあるかな？」

児童「人がいるときに明かりがつくもの！」「夕方になって、暗くなったら明かりがつくもの！」

先生「では、以前体験した【scratch】で、人がいるときや暗くなった時につく明かりを作ってみよう」

プログラミングソフト【scratch】を使ってプログラムを組む

（プログラミング的思考を用いた学習）

- ・人感センサーをスイッチにして、人が近づいた時にだけ明かりがつくようにしよう。
- ・照度センサーをスイッチにして、一定の暗さ以上になったら明かりがつくようにしよう。

動きはどうしよう？
どんな動きの組合せ？
組合せはどうしたら
もっと良くなるかな？

児童同士で、作成したプログラムについて交流する

→生活場面で電気を有効に活用している工夫を知る。（考察）

児童「手をかざすと水が出るのは、学校のトイレと同じだな。」
「電気って、プログラミングを使うと無駄なく使えるね。」



「総合的な学習の時間」で**体験したプログラミングの学びを**、「理科」の学習活動の中で**具体的に自ら思考して用いる**ことで、実際の生活場面へ結び付ける。

⇒ **子ども自らの体験と創造力にもとづく、より深い学びへ**

平成31年度全国調査に向けた「英語の予備調査」について

平成31年度の全国学力・学習状況調査では、中学3年生等への調査に、国語・数学に加え英語の調査が実施されます。平成30年5月に、京都市内2中学校（久世中・洛北中）において、この調査に向けた予備調査が行われましたので、その概要についてお知らせします。来年度初の実施であり、他の教科と違い、パソコン等機器を使用しますので、英語科教員をはじめ全校体制での準備・実施をお願いします！

【出題された問題について(要旨)】

- ・「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の4技能ごとに出題されているが、「聞くこと」「読むこと」では「書くこと」も含めた領域統合型で出題された大問があった。
- ・全体を通して、2年生までで学習した内容を平易な表現で網羅する形であった。
- ・多くの問題は、学習した文法事項等の知識を踏まえて、「英語を用いてどのように表現するか」に焦点をあてた出題形式であった。
- ・とくに各分野の後半の問題では、日常生活のある場面、ある目的のための言語活動が設定された。日常の授業でも場面・目的を意識した言語活動を、複数の領域を統合して実施することが求められる。

予備調査の問題構成

※今後、文部科学省が、予備調査で判明した課題等に基づいて出題・解答方法等の内容の改善を図りますので、本調査時には変更されている場合があります。

「聞くこと・読むこと・書くこと」調査 …45分

- ・約45分間、調査用CDを校内放送機器等（またはCDプレイヤー等）で再生しつづけ、出題・時間管理を行う。
- ・マークシート解答用紙による選択式、短答式及び記述式で解答。

「話すこと」調査 …15分（準備や移動に要する時間を含む）

- ・コンピュータ教室等において、コンピュータにヘッドセットを接続し、音声を録音する形式で実施（筆記用具は使用しない。）

実務上の主な留意点（予備調査を実施して気づいたこと）

| | | |
|------|--------|---|
| 前日まで | | 「話すこと」調査用のソフトをパソコンにインストールするために、PC教室1つあたり1時間はかかる。動作確認も1時間程度かかる。⇒前日の行事予定に要配慮。 |
| 当日 | 聞 く | ・確認プログラム等と違い、問題文の読み上げは1回のみ！ ⇒形式に慣れる必要がある。 |
| | 話 す | ・生徒への説明は、同一教員（可能であれば英語科教員）が行う方が良い。 ・記録した音声データの回収に時間がかかる。⇒調査後も行事予定に要配慮。 |

調査問題、正答例、「話すこと」「聞くこと」スクリプト（読み上げ原稿）等は、国立教育政策研究所のホームページに公表されています。→「平成30年度 英語予備調査 国立教育政策研究所」で検索

◆平成31年度 全国学力・学習状況調査

- ・平成31年4月18日（木）
- ・小学6年生等…国語，算数 中学3年生等…国語，数学，英語
- ※「英語」は、今後3年に一度実施される予定です。



問題データベースを活用した教材の作成について

平成30年度も、東京書籍の「問題データベース」が無償で活用できます。

教科書・単元を選択できる練習問題のほか、全国学力調査の類題、直近3年間の高校入試問題、漢字書き取りや100ます計算の問題などが作成できます。

帯時間活動や授業の補助教材、宿題、補習課題等さまざまな場面で活用でき、子どもたちの学力の定着状況に応じて、学年をさかのぼって実施することも可能です。

「東京書籍 web ライブラリ」のウェブページにアクセス
(検索サイトで「東京書籍 web ライブラリ」と検索すればOKです)

活用方法は
簡単です！

「会員ログイン」画面に、自校のID・パスワードを入力

自校のID・パスワードは、以前から変更ありません。
わからない場合は、学校指導課 (Tel.222-3801) にお問い合わせください。
(プレ) ショートプログラム・学習確認プログラムの予習シート送り状にも記載されています。

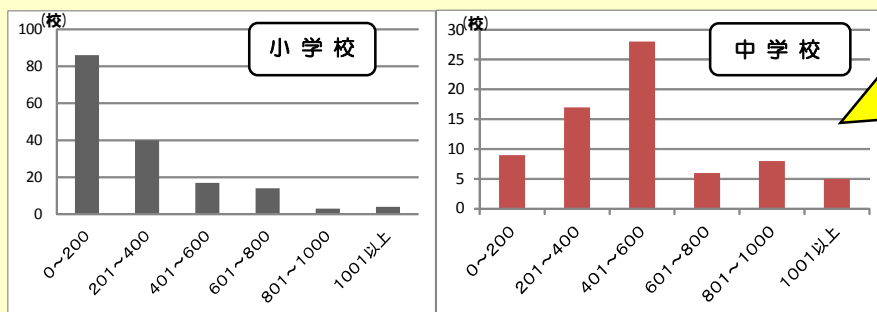
「ご利用いただけるコンテンツ」から、「問題データベース (教科ごと)」を選択

活用したいメニューを選んでください



平成29年度の問題データベース活用状況

1校あたりの問題データベースへの年間アクセスは、平均して小学校約190回、中学校500回でした。問題データベースが日常的に教材の一つとして活用されています。



年100回以上使用する学校が、**小114校、中70校も！！**

(自校の回数を知りたい時は、
学校指導課にお問い合わせを！)

中には、
小学校で1,500回以上、
中学校で1,800回以上アクセス
する学校もあります。

自校の工夫を加えて、オリジナル教材にもできますので、ぜひ積極的に活用してください。

★学びのコンパスに掲載している写真等は、光京都イントラの学校指導課のページに記載しています★

光京都イントラ>●3 各課のページ>学校指導課>●子どもたちの学力向上をめざして・学びのコンパス

～取材にご協力いただいた学校の先生方、ありがとうございました！～

ユニークな学力向上実践をされている学校は、学校指導課までお知らせください！



学びのコンパス 平成30年7月・第9号

《発行元》京都市教育委員会指導部学校指導課
小中一貫教育・学校運営企画担当 (Tel.222-3801)